

2020年3月11日(水)

老球の細道530号

状況判断

会津バスケットボール協会 室井 富仁

テレビの歴史番組が好きなので毎朝新聞のテレビ欄をチェックして録画する。細切れ時間を見つけては後で再生しながら観るようにしている。歴史番組で特に好きなのはNHK・BSで放映している『英雄たちの選択』である。今売れっ子の歴史学者磯田道史さんが司会を務めている。歴史の中で英雄たちが危機状態に陥った時にどのような状況判断をして、どのように決断していくかに興味がそそられる。私だったらどうするか。

今コロナウイルスの感染を封じ込めるために、全国一斉の休校という決断を政府が下して大きな批判を浴びている。スポーツ行事などの自粛も要請され、各競技団体が実施すべきか、中止すべきか、はたまた無観客かとまさに決断の選択に悩まされている状況である。私も規模は小さいが、バスケットボールの大会を実施するかどうかの判断に関与したが、その時点では福島県の感染者はまだ0だったので、もう少し様子を見てみようと判断した。ところがその後状況が一転し、急遽全国一斉の休校となり部活動もできないということからミニの大会は延期、会津フェスティバルは中止となった。果たして適切な判断だったのか。単にリスクを恐れて無難な方を選択したのか悩むところであった。

昨年も大雨が予測される時に状況判断を迫られることがあった。大会を継続すべきか延期すべきか。会津若松市からの緊急メールによる避難勧告時に、家にいても大丈夫なのか、避難場所に避難したほうが安全なのか等。

日常生活の子細なことで健康や生命のリスクが伴わなければたいしたことはないが、今回のように未知の脅威に対する決断を迫られた時は大いに迷うことになる。そして最悪の結末は、デマに踊らされ過敏に反応し、大勢に流されるしか判断ができなくなることである。

以前NHK『知恵泉・平清盛』の放送で立命館アジア太平洋大学学長の出口治明さんが状況判断に必要な視点を三つあげていた。①タテの視点(歴史的な視点)②ヨコの視点(世界的な視点)③算数の視点(裏付けとなるデータ)。過去はどうだったか、世界的に見て他の国はどのように対処したのか、科学的エビデンスはどうかなどを参考にすることによって、少なくとも正しく恐れながら、冷静な状況判断ができるようになるということであった。

ところで、バスケットボールにおいても状況判断は常に要求される。シュートかパスか。スピードかスローダウンか等。選手の伸びしろは、この状況判断ができるか否かにかかっているといても過言ではない。特にオフェンスの状況判断を決する要素はディフェンスである。「オフェンスの状況判断はディフェンスがすべて教えてくれる」という格言もある。

新型コロナ感染症はまだ収束が見えない状況が続く。安易に周囲に流されないで、色々な視点から自分で判断する良い機会ととらえて冷静に行動していきたい。昔から心がけていた状況判断の基準は①迷ったら進め②常識はとりあえず疑え③マイナスを選べ。